

進路対策委員会活動報告書

担当：岩手県高等学校PTA連合会

『後悔と向き合う失敗学のすすめ』

東北地区高P連進路対策員長 木村元思

私が小学校低学年のある日、自宅の窓から見える山麓を目指し、友人3人と意気揚々と自転車のペダルを踏んだ。根拠のない自信と好奇心だけを伴ってところが、ペダルをこぎ続けると目指す場所が遙か彼方に感じる。夕刻不安な気持ちを抱え、来た道を懸命に引き返した苦い経験を今でも覚えている。

振り返れば、近傍の山という先入観と興味関心によってのみ支えられた稚拙な挑戦は、無謀だった。一方、視覚情報の曖昧さを体感し、同時に不安という感情を友人と共有することで、むしろ安心感や勇気を得られることを発見した「失敗体験」でもあった。

職業の多様化が進む時代。人生経験の少ない子どもにとって進路選択は容易なことではない。それにも関わらず、私たち大人はつい「後悔しない進路選択を」という言葉を軽率に発してしまう。しかし、人は本来、自らの失敗を通じて多くの教訓や物事の本質を理解することに長けた生き物だ。進路選択は自己実現に向けた旅の途中として捉えるなら、私たち保護者が教訓とすべきは、後悔は次の意欲ある選択につながる動機にもなる、と理解することだろう。

私は、失敗を恐れず自ら一步を踏み出す子どもを支える、勇気ある親でありたい。



<東北地区高等学校PTA連合会進路対策委員>

委員長 木村元思 (岩手県：盛岡第一)
副委員長 笹花弘行 (岩手県：山田) 鈴木守 (福島県：二本松実業)
委員 三代川将仁 (青森県：三戸) 松原由香 (宮城県：仙台第三)
齋藤正樹 (秋田県：仁賀保) 川井博 (山形県：山辺)

<活動報告>

1. 第1回進路対策委員会 6月10日(水)：山形国際ホテル
2. 第2回進路対策委員会 9月5日(金)：ホテルメトロポリタン盛岡本館
【講話】「若者の就職観のいまー就職支援の現場からー」
講師：ジョブカフェいわて キャリアカウンセラー 岡田香織氏
【情報交換】若者の就職観(離職・転職)について
3. 第3回進路対策委員会 12月5日(金)：ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING
【講話】「高校探究を活かした大学での地域志向教育」
ー岩手県立大学副専攻「地域創造教育プログラム」ー
講師：岩手県立大学高等教育推進センター 教授 渡部芳栄氏
【情報交換】各県の地域志向教育の取り組みについて

各県の委員長さん方から日頃の活動について伺いました

岩 手 県

『東北地区高P連進路対策委員会に参加して』

岩手県高P連進路対策委員長 笹花 弘行

各県のPTA会長や事務局担当の先生方と交流する機会をいただき誠にありがとうございます。各県のPTA会長の方々が明るく元気でパワフルなところに感銘を受けました。また、県や校種の違いは多少あるにせよ、子ども達の最終的な進路決定にどのように関わっていくかという共通の悩みがあるということがわかりました。進路を考える際に、「子どもの意思を尊重したい」という気持ちがあったとしても、保護者として進路選択に責任を持つことが大切だという考えは全国共通であると認識しました。昨今、インターネットを通じて様々な情報を容易に得ることができますが、それを鵜呑みにせず取捨選択する目を子ども達と共に保護者も持たなければならないという考えは同じだなと感じました。以前に比べ進路選択の幅は広がっていますが、最後は目先の情報だけではなく、将来的な展望や考えを持ち、しっかり自分で考える力を持たせながら保護者として最後まで関わることが、いつの時代でも大事であると改めて強く感じる1年間でした。



福 島 県

『進路選択のミスマッチを防ぐため』

福島県高P連進路対策委員長 鈴木 守

情報交換会にて、多くの方から「進路選択後のミスマッチ」や「コミュニケーション不足」による早期離脱・退学の課題が報告されています。進路選択時の情報不足や自己理解の不足・自分の考えや不安、希望を十分に伝えられないまま進路を決定すると入学や入社後に「想像と違う」と感じ早期離脱につながる場合があります。

また、周囲との対話が不足すると、誤解や孤独感を深めてしまうことも少なくありません。

こうしたミスマッチを防ぐために日ごろからの対話を重ね進学先・就職先に関する正確な情報提供、個別相談体制の強化に取り組み生徒一人一人が納得のいく進路選択を行えるよう学校・家庭・地域と連携した取り組みが必要だと思います。



青 森 県

『進路対策委員会の活動に参加して』

青森県高P連進路対策委員長 三代川 将仁

私は、令和6年度・7年度の二年間進路対策委員として活動しました。高校生の多様な進路選択（進学・就職等）への理解を深め、保護者が最新の進路情報を正しく知り、子どもと対話できる環境を整え、学校・地域・関係機関と連携し、進路支援に取り組んできました。

この2年間、進路講演会や説明会、情報共有を通して、「知ること」「話すこと」の大切さを感じてきました。

進路は成績も大事ですが、それだけでなく、情報と理解が大きく影響します。進路は一つではなく、選択肢はたくさんあります。

家庭での何気ない会話が、子どもの背中をそっと押すこともあります。

これからも学校や地域とつながりながら、子どもたちの未来を応援し、支える活動が引き継がれていくことを願っています。



『試練を成長の糧に』

宮城県高P連進路対策委員長 松原由香

子どもの未来を思う親として、東北地区高P連進路対策委員会に参加できたことはとてもありがたい経験でした。今の若者は安定を求めながらも、自分らしさや成長を大切にしている、その思いを応援したいと感じます。ただ、社会に出ることは決して平坦な道ではなく、試練や困難を乗り越える力が必要です。そうした経験こそが、子ども達をより強く、しなやかにしてくれると信じています。

高校での探究活動や大学での地域志向教育は、課題に向き合う力を育み、地域への愛着を深める貴重な機会です。子どもたちが挑戦を恐れず、試練を成長の糧にしながら、自分の未来を切り拓いていけるよう、学校・地域・家庭が共に支えていくことを心から願っています。



「仲間たちと」

秋田県高P連進路対策委員長 齋藤正樹

東北地区進路対策委員会では各県の取り組み状況、また沢山の情報や課題を共有することが出来ました。中でも進路における保護者としての心構え、地域による進路情報などについての意見交換が行う事が出来て大変有意義な時間でした。また委員会の活動を通じて進路に関する課題は学校だけではなく、保護者や地域全体での取り組みが必要である事を再確認しました。その為にも各PTAが連携し、さまざまな情報を共有して行く事が子どもたちの成長と将来の自立に繋がるのではないかと感じています。

この進路対策委員会で同じ課題に向き合う仲間と出会い、交流を深める事が出来たことに誠に感謝申し上げます。最後に将来を担う子どもたちの為に今後の活動にエールを贈ります。



『地域愛着』

山形県高P連進路対策委員長 川井博

山辺高校は県内唯一「食物科」「福祉科」「看護科」を設置しています。1年次より専門的な知識を学び、実習やボランティア活動を通して幼児から高齢者までの幅広い年齢層の方々と触れ合うことで人間的に大きく成長できると考えています。

学校・地域・PTAの連携を深め、環境を整えることで子ども達達の自分らしい進路選択の実現に繋げていきたいものです。

各県の皆様との情報交換を通し、地域住民との交流からコミュニティへの所属意識や地域の愛着心を育むため、より地域との連携を深めていくことの重要性を感じました。

最後に有意義な機会を設定していただいた木村委員長、佐藤事務局長はじめ岩手県関係者の方々に心より感謝申し上げます。



令和7年度 第2回岩手県高P連進路対策委員会 報告

記録 山田高校 武藤 道治

- 1 日 時 令和7年9月5日(金) 14:00～16:40
 - 2 会 場 ホテルメトロポリタン盛岡(本館)
 - 3 次第 (1)開会のあいさつ 副委員長 笹花 弘行:代理 武藤 道治(山田高校事務局長)
(2)委員長あいさつ 東北地区高P連進路対策委員長 木村 元思
(3)講 話 テーマ 「若者の職業観のいま～就職支援の現場から～」
講 師 ジョブカフェいわて キャリアカウンセラー 岡田 香織 氏
 - 4 協議・報告 議 長:東北地区高P連進路対策委員長 木村 元思
記 録:委員会事務局長(山田高校)
 - (1) 講話について質疑
 - (2) 各県の若者の就職観(離職・転職)について(情報交換)
 - (3) 全国高P連進路対策委員会状況報告
 - (4) 第3回進路対策委員会について
ア 期 日 令和7年12月5日(金)～6日(土)
イ 会 場 ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING
ウ 講 話 演 題:「地域思考教育に関する事例報告」(仮)
講 師:岩手県立大学 研究・地域連携室
 - 5 講話(内容) テーマ 「若者の職業観のいま～就職支援の現場から～」
 - (1) 離職・転職の理由
ア 1年目 頑張っても叱られる→仕事(配属や職種そのもの)が合わない
イ 2年目 (ア)(接客の際に)お客様対応が負担
(イ) 同期・年齢の近い仲間・同僚がない
(ウ) 相談できる人がいない・不安が大きい
ウ 3年目 10年目の先輩も(現在の自分と)同じ仕事をしている
→これからの会社および会社での自分自身の成長がイメージできない
 - (2) 転職の際に問われること
ア 離職・転職の理由
イ 前職での経験→きちんと説明できるかどうか採用・不採用の重要ポイント
 - 6 情報交換(各県の状況等)
 - (1) 岩手
ア 転職先があるか/転職により「自己実現」できるかどうか
イ 講話の資料(データ)より
(ア) 2015年と2025年の「求人倍率」がほぼ一緒
→その質・内容が違う…人手不足感が全く違う
(イ) 「土日休み」(が良い/当たり前)という固定観念がある
→職業選択の際に、固定観念が邪魔をする場合がある
 - (2) 福島
ア 「厳しさ」のさじ加減が難しい
イ 人間関係をしっかり作る
(ア) 「怒る」のではなく「叱る」:
怒鳴らない、大声を出さない
(イ) 「できている」ことを「褒める」&
「できない」ことを指摘しないようにする
- ※各県とも「高校生」の就職率が下降し、進学率が上昇



令和7年度 第3回東北地区高P連進路対策委員会 報告

記録 山田高校 武藤 道治

- 1 日 時 令和7年12月5日(金) 14:00～16:40
- 2 会 場 ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING
- 3 次 第
 - (1) 開会のあいさつ (副委員長 笹花 弘行 :代理 事務局 武藤 道治)
 - (2) 委員長あいさつ (東北地区高P連進路対策委員長 木村元思)
 - (3) 講 話 テーマ 「高校探究を活かした大学での地域志向教育」
ー岩手県立大学副専攻「地域創造教育プログラム」ー
講 師 岩手県立大学 渡部 芳栄 氏
 - (4) 協議・報告 議 長：東北地区高P連進路対策委員長 木村 元思
記 録：委員会事務局長 (山田高校)
 - (5) 閉会のあいさつ (副委員長 鈴木守)
 - (6) 事務連絡

4 講話内容

- (1) 岩手県立大学について
- (2) 副専攻「地域創造教育プログラム」
- (3) まとめ

学生たちがそれぞれの出身地や興味を持った地域を自ら選定し、その地域でいま必要とされていることや伝承者不足により伝統が消滅の危機にあることを実際に地域の方々と連携

を図りながら「創造および実践」していく。まさに学生たちが主体となり異なる学部の学生たちが横断的に自ら考え、意見を出し、協力し合って取り組んでいくことで、地域に貢献している。岩手全域を網羅したいものの、学生の出身地や興味関心の関係で、どうしても「空白地帯」が生まれてしまうのが課題である。



5 情報交換

- ア 福島県 進路に関して、各校とも生徒一人ひとりに手厚い指導を行っている。ただし、そのことにより生徒たちが「自ら考え、自らの力で行う（進む）」といことを阻害している可能性は否めない。
- イ 青森県 生徒の「主体性を育む」ように少しずつシフトしている。
- ウ 宮城県 地域振興とは「地域を知ること」、「地域の課題を知り、解決方法を考える」ことだと考えている。
- エ 山形県 県内全体では少子化の影響が大きい。一方、山辺高校はこの影響あまり受けず、受験希望者が集まっている。また、資格取得に力を注いでいるので、生徒たちも県内に就職している。
- オ 秋田県 仁賀保高校では、にかほ市と「地域連携協定」（県内初）を結んでいる。また、生徒たちが小中学生に勉強を教える「公営塾」を開設している。